



DX戦略

2026年改訂版

令和 8年 4月 20日

代表取締役社長 久保 安宏

1 DX取組宣言

当社は、プラスチック加工のプロフェッショナルとして、創業以来60年にわたり、時代のニーズに応じた設備投資と技術力の向上に取り組み、事業を展開してまいりました。

現在、当社を取り巻く環境は大きく変化しています。人手不足、AIやヒューマノイドロボットの進展、働き方の多様化、さらにはエネルギーコストの増大など、従来の延長では対応しきれない局面に直面しています。また、環境負荷低減や持続可能性への取り組みも不可欠となっています。

一方で、半導体やEV、航空宇宙などの先進分野の発展に伴い、当社の加工技術とプラスチックの需要は今後ますます拡大していくと見込んでいます。プラスチックは軽量で加工性に優れ、電気・熱を通しにくく衛生性にも優れるなどの特長を有し、今後も適用分野の広がりが期待されます。

この春、代表者交代という節目を迎え、当社は「家業から企業へ」と進化する転換期にあります。現在、社員の約3分の1を20代が占めるなど、将来に向けた基盤も整いつつあります。人は永遠に生きることはできませんが、会社は世代を超えて存続し続けます。

そのためには、一人ひとりが健康でいきいきと働ける環境を整えるとともに、個人の経験や技能を組織の知として蓄積し、再現性のある仕組みとして活用していくことが不可欠です。そして、世代交代や技術継承を通じて、組織として美しく新陳代謝を繰り返しながら、持続的に成長し続ける会社であることを目指してまいります。

その実現のために、当社はDXを推進し、デジタル技術とデータ活用による業務改革と生産性向上に取り組みます。FA（ファクトリーオートメーション）やAI活用などにより、自動化と標準化を進め、多様化するご要望に迅速かつ的確に対応してまいります。

また、環境負荷の低減に向け、データ活用によるエネルギー使用の最適化や効率化など、省エネルギーを軸とした事業活動にもDXの一環として取り組んでまいります。

当社はこれからも、時代の変化を機会と捉え、技術と挑戦によって新たな価値を創出し続けてまいります。

株式会社クボプラ
 代表取締役社長 久保 安宏
 次期代表取締役社長 太田 晶

2 経営理念・経営ビジョン

<経営理念>

私たちクボプラは「挑戦による進化」を合言葉に、チャレンジ精神を大切に、常にプラスチックの新たな技術やイノベーションに挑戦し続けます。

一人ひとりが主体的に考え行動する自主自律の姿勢を重んじるとともに、個の成長と組織の進化は互いに高め合う不可欠な関係にあると考えています。変化を恐れず挑戦し続ける中で、個と組織が相互に成長し続ける企業であり続けます。

奥多摩の雄大な山々、多摩川の清流、蛍に囲まれる豊かな自然の中で邁進する企業として、環境に配慮した持続可能な取り組みやプロセス改善を進めるとともに、お客様により深く喜びと感動をお届けできる製品とサービスの提供にこれからも努めてまいります。

<経営ビジョン>

クボプラは、挑戦を尊ぶ社風のもと、新素材・加工技術・最新設備といった先進技術に加え、デジタル技術を駆使することで、技術力と生産性のさらなる向上を図り、新たな事業領域への展開を進めてまいります。

また、創業以来約60年にわたり培ってきたプラスチック加工のノウハウや提案力、技術力、さらにはお客様やお取引先様、地域との関係性といった当社の資産を活かしながら、社会の進歩に挑戦し続けるお客様を力強く支えてまいります。

規律あるデータドリブンな意思決定を実現し、揺るがないものづくり体制を構築する一方で、人と人との対話から生まれる柔軟な発想を大切に、その両輪によって新たな価値を創出してまいります。

これらの取り組みを通じて、お客様、地域、そして社会に対し持続的に価値を提供し続ける企業を目指します。

3 DX戦略

株式会社クボプラは、経営ビジョンやビジネスモデルを実現するために、以下の5つのDX戦略を定めております。
 全社一丸となって、これらの戦略を着実に推進してまいります。

<p>戦略① デジタル機器活用による生産性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MT-LINKi、協働ロボット等の活用によるスマートファクトリー化（省人化・自動化） ・デジタル見積・段取り指示システムの導入、自動計測機による検査工程の効率化 ・デジタルマニュアル（※）の作成による技術力の向上
<p>戦略② 社内情報の共有化と生成AI活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生産管理システムの構築と既存システムの連携による、営業・見積・受注・生産・検査・納品等の業務の生産性向上 ・生成AIの段階的な活用（業務支援、社内ノウハウの検索・参照、熟練工の知見継承）
<p>戦略③ 作業標準化・工程管理高度化による不良低減・ロス削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルツール活用による作業手順の標準化と工程管理の高度化により、不良品の発生を抑制し、材料ロスや再加工の削減を図る ・データに基づくエネルギー使用の可視化・最適化による省エネルギー化（DXの一環としての環境負荷低減） ・樹脂加工、部品の集約、工法の変更による効率化と環境負荷の低減
<p>戦略④ 新規顧客獲得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSやWebサイトを活用したDX活動の情報発信によるブランド価値の向上 ・異業種（医療、半導体、EV等）への販路拡大、展示会出展
<p>戦略⑤ デジタル人材の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD/CAM講習会やロボット研修等の実施による社内導入システムの習熟度向上 ・ITパスポート、生成AIパスポート、G検定等の資格取得支援 ・生成AIの活用リテラシーと情報を正しく判断する力（クリティカル・シンキング）の習得

※ デジタルマニュアル：動画・画像等で作業手順や技術ノウハウをまとめた電子版の手順書。

4 DX推進の前提条件：情報セキュリティ

DXを着実に推進するためには、情報セキュリティの確保が欠かせません。

特に近年は、生成AIを悪用したフィッシング、音声や映像を偽装する手口、取引先を経由する攻撃など、従来の見分け方では対応しきれない手口が増えてまいりました。中小企業も例外ではなく、製造業もその対象となっています。

主な対応方針

組織・規程の整備

情報セキュリティ基本方針（令和6年4月公表）に加え、情報セキュリティ規程を整備いたします。定期的に社内で見直しをまいります。

SECURITY ACTION（★★ 二つ星）宣言済

IPAが推進する中小企業向け情報セキュリティ自己宣言制度において「二つ星」を取得済みです。
中小企業の情報セキュリティ対策ガイドラインに沿った対策を継続的に実施しています。

技術的な対策

多要素認証の全社展開、拠点間の安全な通信経路の確保等を段階的に進めてまいります。

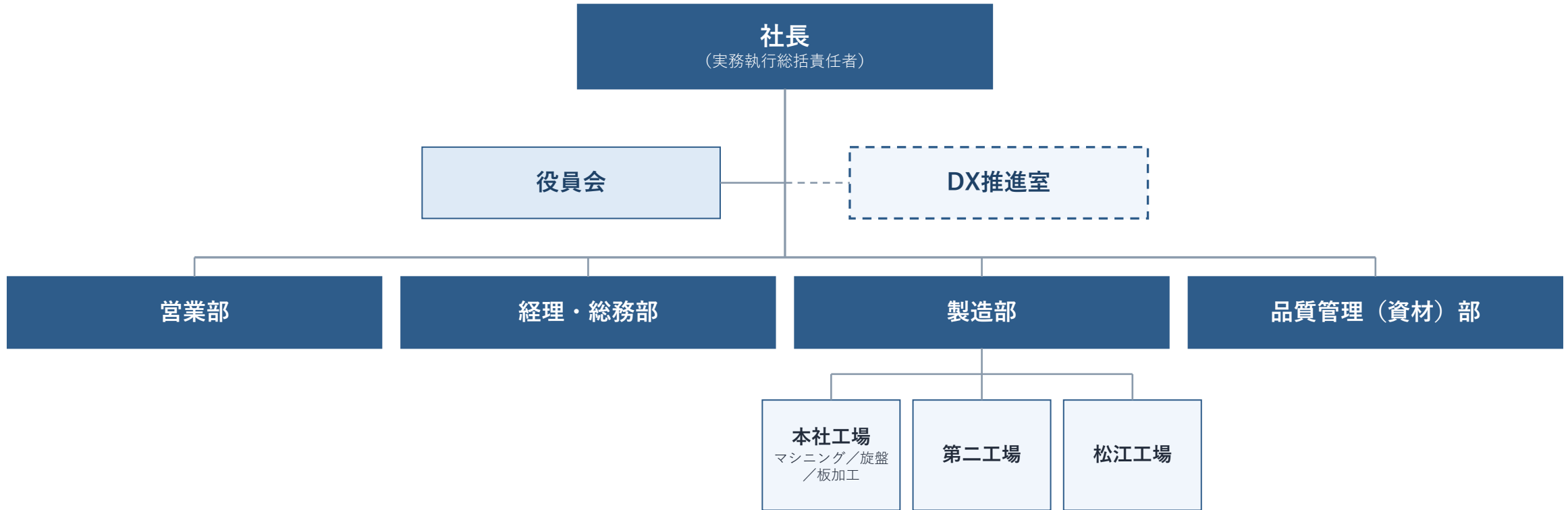
社員教育・取引先との連携

全社員向けのセキュリティ教育を年次で実施するとともに、主要な取引先とセキュリティ水準の確認を行い、サプライチェーン全体での対応を図ってまいります。

※ 情報セキュリティへの取組みの詳細は、別途定める「情報セキュリティ規程」に基づいて運用いたします。

5 DX推進体制及びデジタル人材育成

株式会社クボプラは、社長（実務執行総括責任者）を中心として「DX推進室」を設置し、DX戦略の実現およびデジタル人材の育成を推進いたします。DX推進室では定期的に会議を開催し、各部門および全社で取り組む計画について進捗と今後の方針を報告・提案し合いながら運営してまいります。



経営継承とDXについて

令和8年（2026年）5月の創業60周年を契機に、代表取締役社長を太田晶 現常務取締役継承する予定です。継承後もDXを経営の柱として継続的に推進してまいります。

6 デジタル技術、環境整備

株式会社クボプラは、DX戦略を実現するために、毎年売上の1%を目安に投資を行い、既存システムの定期的な見直しや新規システムの導入検討を行いながら、DX推進のための環境整備を進めてまいります。

< 既存システム >

- ・ 自社独自の業務管理・会計管理システム
- ・ マシニングセンター（本社・第二工場・松江工場）
- ・ FANUC MT-LINKi（機械稼働監視システム）
- ・ free勤怠（出退勤管理）
- ・ 楽楽明細（請求書発行）
- ・ 各種CAD/CAM

< 新規システム（導入・検討中） >

- ・ 統合管理システム（業務管理・MT-LINKi・勤怠の連携、工程管理の強化）
- ・ デジタルスケジューリングツール
- ・ AIエージェントによる業務自動化ツール
- ・ デジタル見積・デジタル段取り・簡易段取りシステム
- ・ 協働ロボット、自動計測機
- ・ 生成AIの業務利用環境（クラウドAI／社内ナレッジ検索）
- ・ データ分析基盤（DWH+BIツール）

7 推進目標 (KPI)

DX戦略の推進を着実に進めるため、以下の推進目標 (KPI) を設定し、PDCAサイクルを回しながら継続的な改善に取り組んでまいります。

DX戦略	取り組み内容	時期	目標値
戦略① 生産性向上	MT-LINKi・業務管理等の連携による各製造工程の一元管理・可視化	2028年まで	機械稼働率 60%
戦略① 生産性向上	工場内運営のIoT化（各機械設備の遠隔監視、データ活用、需要予測）	2028年まで	各機械設備の遠隔監視・可視化を全体の80%達成
戦略② 情報共有・AI活用	生産管理システムの構築と既存システムの連携による、間接業務の生産性向上、生成AIの段階的な活用	2028年まで	生産管理システムの構築・運用、規定した社内情報の100%共有
戦略③ 不良・ロス低減	作業手順の標準化、工程管理の高度化、エネルギー使用の可視化・最適化による省エネルギー化	2030年まで	不良率・材料ロスの低減（データに基づく継続的改善）
戦略④ 新規顧客獲得	SNSを活用した情報発信、異業種（医療、半導体、EV等）への進出、展示会出展	2030年まで	異業種展示会に年1回以上出展
戦略⑤ デジタル人材育成	ITパスポート等の資格取得支援、CAD/CAM講習会の開催、生成AI活用リテラシー研修	2028年まで	ITパスポート合格者3名以上、CAD/CAM講習会の定期開催

8 戦略の見直しと改訂について

DXを取り巻く環境は、技術の進化や社会情勢の変化により、今後も大きく変わっていくと考えております。本戦略は、策定して終わりではなく、継続的な見直しを前提としております。

見直しのサイクル

<p>四半期</p>	<p>DX推進会議にて各施策の進捗を確認し、必要な調整を行います。</p>
<p>半期</p>	<p>役員会にて戦略全体の進捗を報告し、重要な方針について協議いたします。</p>
<p>年次</p>	<p>戦略そのものの妥当性を見直し、必要に応じて改訂いたします。KPIの達成状況も年次で評価いたします。</p>
<p>随時</p>	<p>重大な環境変化（技術的变化、法令改正、事業環境の変化等）があった場合は、時期にかかわらず戦略を見直します。</p>

9 社長メッセージ

～さらなる飛躍を旨として～

株式会社クボプラの久保安宏です。私は、これまでの人生を「チャレンジ」という言葉を胸に歩んでまいりました。先代社長から「挑戦」の精神を受け継いだクボプラも、創業以来60年、絶えず成長と革新を重ね、お客様や地域の皆様、そして社員とともに歩みを進めてまいりました。

この春、私は代表取締役社長を退き、次期社長の太田晶に経営の舵取りを託すこととなります。これは一つの節目であると同時に、「家業から企業へ」と進化していく上での大切な一歩でもあると捉えております。会社は世代を超えて存続し続けるものであり、個人の経験や技能を組織の知として残し、再現性のある仕組みに変えていくこと、そして次の世代が自らの感性と知恵で新たな挑戦を重ねられる土壌を整えることが、私たちの大切な役目であると考えております。

このたびのDX戦略の改訂は、そうした考えの延長線上にあります。当社は、デジタル機器の活用による生産性向上、生産管理システムと生成AIの段階的な活用、作業標準化と工程管理の高度化による不良・ロスの低減、新規市場の開拓、そしてデジタル人材の育成を、5つの柱として全社で推進してまいります。また、これらの前提となる情報セキュリティの確保と、省エネルギーを軸とした環境負荷低減にも一体で取り組んでまいります。

これらの取り組みは、一朝一夕に成果が出るものではございません。毎年売上の1%を目安としたDX投資を継続し、補助金等も活用しながら、年次で戦略の見直しを行い、着実に前進させてまいります。代表者が変わっても、DXを経営の柱として位置付ける方針は変わりません。新体制のもと、より一層スピードと実効性を持って推進してまいります。

これからのクボプラを担うのは、新しい代表とともに、日々現場で汗を流す社員一人ひとりです。デジタル技術は、使いこなす人がいて初めて力を発揮します。全社員が主体的に学び、試し、改善を重ねる文化を大切にしながら、お客様、お取引先様、地域の皆様に支えられ、これからも価値を提供し続ける企業を目指してまいります。私は一歩引いた立場から、変わらぬ想いで会社の行く末を見守り、必要な折に支えてまいります。これまでご支援くださったすべての方々には心より感謝を申し上げますとともに、新体制となりますクボプラへの変わらぬご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社クボプラ
代表取締役社長 久保 安宏